

ティーチング・ステートメント

所属 全学共通教育部

名前 金澤 昭良

作成日 2024年3月1日

【責任】

- ・全学共通教育部に所属し、教職科目の授業としては、教職入門、教育方法及び技術、情報科教育法、特別活動及び総合的な探究の時間の指導法、教育実習、教職実践演習を担当。また、HUSスタンダード科目の授業としてSDGs「環境と人権」を担当。(シラバス)
- ・その他、教職課程委員会及び学術情報センター、教職担当教員としての業務全般、高大連携、他大学との共同研究などを行っている。(シラバス等)

【理念】

- ・教職の仕事に限らず、生涯にわたり社会においてよりよく生きるための土台となる教養やスキルを身につけてほしい。
- ・大学での学びを活かして社会で活躍するために、自分で考え、学び続ける姿勢や、他者とともに課題を解決する習慣を身につけてほしい。
- ・教育現場が抱えている問題、学校教育において解決が迫られている問題、自然環境や社会環境の問題に気づくことのできる柔軟な創造力を身につけてほしい。
- ・自分の言葉で自分を表現し、的確に相手に伝える力、相手の言葉を正しく受け止め、理解する力を身につけてほしい。

【方針・方法】

- ・方針1：教養の土台を築くために必要な基本的な知識やスキルが獲得できているかどうかを確認する。同時にこれが教養の土台を作る出発点ともなることを意識化させる
 - 方法1：自身の教育力の向上に努め、知識・スキルを育成するための授業内容や、内容に応じたグループワーク等の授業展開の工夫・改善に努める
 - 方法2：授業後に毎回確認のためのテストや課題レポートを実施し、実施後には、必ずフィードバックを行う
 - 方法3：座学においても、話題性や自分たちへの影響、効果などの観点から具体的な問題を提示し、これに関係するさまざまな原因や解決策等について議論を深める
- ・方針2：自分で考え、学び続ける習慣や、他者との協働を通して、課題を解決する力を育む場を提供する
 - 方法1：種々の社会問題等の正解が定まらない課題に果敢にチャレンジさせる
 - 方法2：自分で種々の学問や法規、内容等の概要について調べ、自分なりに社会問題との関係を考えさせ、グループワーク等を通して発表し、議論を行う
 - 方法3：教育実習等の実践的な活動や、学外の教育関係者と連携した授業を通して、学生に実社会とのつながりを意識させる
- ・方針3：教育現場が抱えている問題、学校教育において解決が迫られている問題等への関心を喚起し、理解を深めるとともに、問題の解決のための方策等について、思考・作成・振り返りを繰り返させる

方法1：教育に係る身近な話題等から出発して考えることのできる課題を設定する

方法2：学生の回答をもとに、さらに具体例をあげながら身近な話題等とのつながりを説明する

方法3：個人やグループの作成物を授業内で公開し、他者からの評価を踏まえ、他者の考えを認識し、自己変革につなげさせる

- ・方針4：自分を伝えるにはどのような「ことば」が必要か、相手を理解するにはどのような「ことば」が必要かを考えることで、コミュニケーション力を養う場を提供する

方法1：共通あるいは異なるテーマを場面に応じて設定し、一人ひとりにプレゼンテーションを行わせる

方法2：教育現場に必要な具体的なコミュニケーション力を、模擬授業や教育実習等の体験を通して体得させる

方法3：プレゼンテーションの資料や内容について議論を行い、不足・欠落しているものを確認させる

【成果・評価】

・評価：

- ・授業後の感想で、「実際の授業の様子を記録した資料」や「教育に係る新聞記事」等の提供を受け、授業内外でそれらの視聴・読解の機会があるため、教育現場を意識して学習を行うことができた」とのコメントが得られた。
- ・授業改善のためのアンケートで、「パワーポイントの説明資料は要点が整理されていて、スムーズに学習することができた」、「自身の意見を考え、まとめる時間が毎時間用意されていた」などのコメントが得られた。
- ・学生から進路等に係る相談を度々受けるようになった。
- ・授業で課したレポートや考査の解答内容に、質が高いものが多い。
- ・外部講師等から教育現場の状況等について説明を聞く機会が欲しいとの要望があった。
- ・授業において、個人やグループが作成したレポートやプレゼン資料等を授業内で公開したが、他者からの評価を踏まえ、自ら改善する機会の確保が課題である。

【目標】

・短期：

- ①教科教育及び自然科学に関する研究会に参加する（2025年3月）
- ②授業にプレゼンテーション発表・協議の場面を取り入れる（2026年1月）
- ③学生が教育現場や教育関係者と接触する機会を増やす（2025年1月）

・長期：

- ①授業指導計画を検討し、これが絶えず修正されるような授業を展開する
- ②学生が俯瞰的・鳥瞰的な視点を身につけたことを確認できる評価方法を考える
- ③授業内容への興味・関心を高めたり、学ぶ意欲を高めたりする方法を考える